

令和6年11月分 名古屋港貿易概況（速報）の要旨

令和6年11月分について、輸出額は「自動車」などが増加したものの、「自動車の部分品」「ポンプ及び遠心分離機」などが減少したことから、対前年同月比0.0%の減少となった。輸入額は「原粗油」「液化天然ガス」などが減少したことから、同8.5%の減少となった。

その結果、差引額は7,724億円（同7.5%の増加）となった。

名古屋港における自動車の輸出額は11月として第1位。

名古屋港における差引額は、平成23年6月以降162ヶ月（13年6ヶ月）連続 全国港別（空港含む）第1位

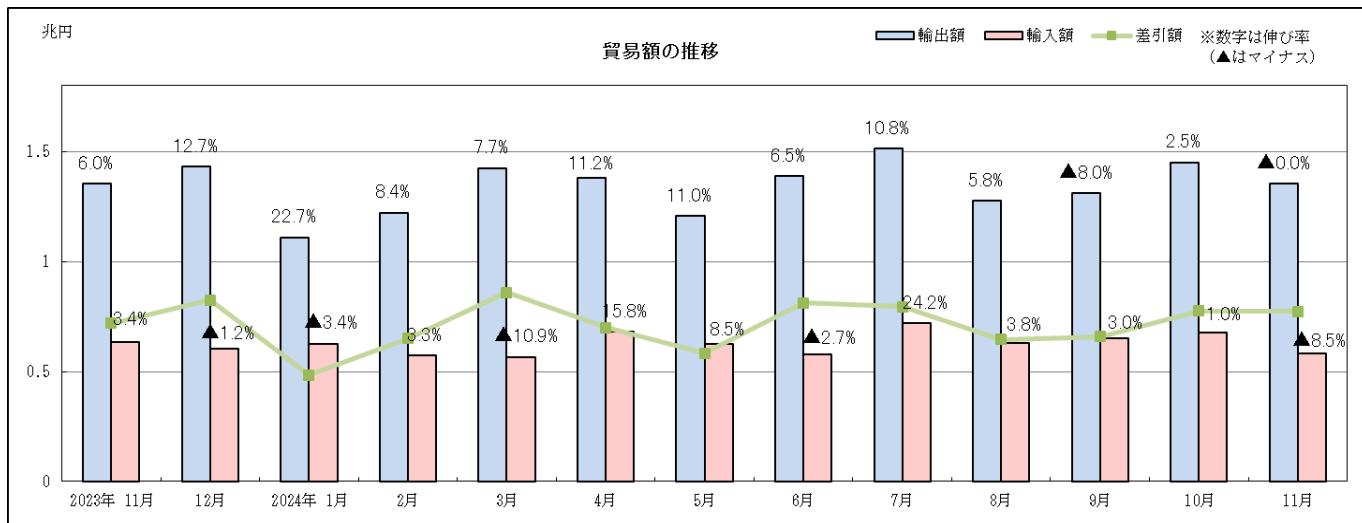
注) 本資料中の「伸率」及び「増加・減少」は、前年同月比による。

○総額

区分	輸出額	伸率	輸入額	伸率	差引額	伸率
名古屋港	1兆3,531億円	▲0.0%	5,807億円	▲8.5%	7,724億円	+7.5%
	2ヶ月ぶりの減少			5ヶ月ぶりの減少		
	順位 過去 11位 11月として 2位	順位 過去 25位 11月として 3位	順位 過去 8位 11月として 1位		2ヶ月連続の増加	
管内（名港シェア）	2兆1,228億円 (63.7%)		1兆0,982億円 (52.9%)		1兆0,246億円 (—)	
全国（名港シェア）	9兆1,524億円 (14.8%)		9兆2,700億円 (6.3%)		▲1,176億円 (—)	

○主な増減品目

	概況品名	金額	伸率	寄与度	増減
輸出 増 (1)	自動車	4,553億円	+6.6%	+2.1	2ヶ月連続の増加
	自動車の部分品	1,642億円	▲11.3%	▲1.6	5ヶ月連続の減少
	ポンプ及び遠心分離機	400億円	▲11.3%	▲0.4	3ヶ月連続の減少
輸入 減 (1)	原粗油	108億円	▲70.6%	▲4.1	2ヶ月連続の減少
	液化天然ガス	336億円	▲12.9%	▲0.8	8ヶ月ぶりの減少



※名古屋港について・・・

本資料における名古屋港の数値は、輸出入された貨物の蔵置場所を管轄する次の税関官署を基準に集計しています。

名古屋港の税関官署とは、名古屋税関本関（含岐阜政令派出所）、中部外郵出張所、南部出張所、諫訪出張所（含長野政令派出所）、西部出張所をいいます。